

ヒューマンリソースディベロッパー

（概要版・編集集中）

スマートブリッジコミュニティチェーン

2020年1月

ビジネスプラン サンプルとは 仮想事業の提案文書です。面談・プレゼンの時 詳細版で説明します。

履歴書、職務経歴書、キャリアプラン及び提案文書サンプルなどの資料は情報の提供のみを目的としています。情報は更新日のものを掲載していますのでご利用時には変更されている場合もあります。したがって、本資料を用いた運用は必ず自身の責任と判断によって行ってください。これらの情報の運用の結果について 著者はいかなる責任も負けません。資料に記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。本文中では™、©、®マークなどは表示しておりません。

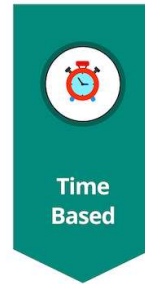
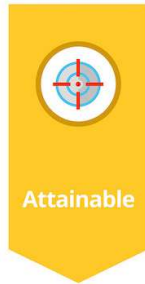
資料の一部または全部を著作権法の定める範囲を越え、無断で複写、複製、転載、テープ化、ファイルにおとすことを禁じます。

この資料は 書類選考済みの1社(S*)の会社営業業務プレゼン用ホームページに参照されました。

- ビジネスモデル
- EdTech
- HRTech
- プラットフォームサービス
 - ✓ プラットフォームアーキテクチャ
 - ✓ 意思決定システム
 - ✓ ソーシャルネットワーク
- SWOT

SMART Life Platform

SMART



◆要素1：Specific（具体的な）

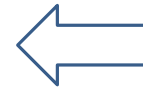
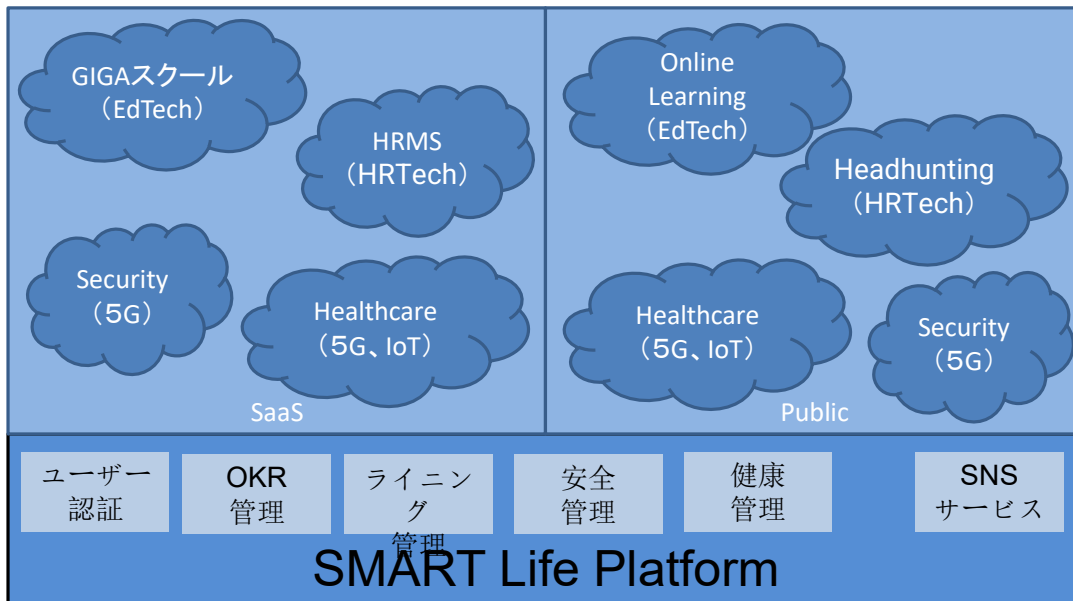
◆要素2：Measurable（測定可能な）

◆要素3：Achievable（達成可能な）

◆要素4：Related（現実的な）

◆要素5：Time-bound（期限が明確な）

SMART Life Platform

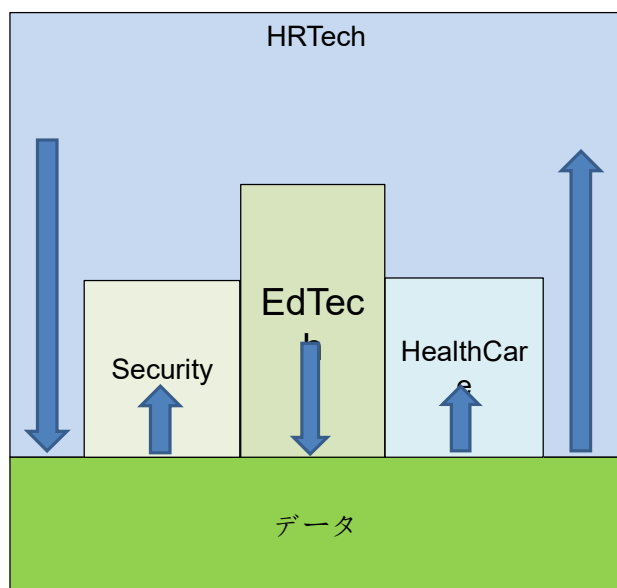


カスタマイズ
サービス



基本
サービス

サービス成長のツリー



サービス名	ユーザー
EdTech	6歳～50歳
HRTech	24歳～50歳
Healthcare	6歳～
Security	6歳～

- 同じユーザー、同じデータサービス
- データアナリストサービス
- 意思決定支援サービス

ビジネスモデル

EdTechとHRTechの人材バンク(人資銀行)ビジネスモデル

教育技術(EdTech)市場の規模は200万億円以上、まだ 毎年10%以上を増長しています。ヒューマンリソース管理技術(HRTech)市場の規模は50万億円以上、まだ 毎年9%以上を増長しています。

EdTechとHRTechをを組み合わせ、クラウドやビッグデータ解析、人工知能(AI)など最先端のIT関連技術を使って、オンラインライニングと学力分析から、採用・育成・評価・配置、離職リスク予防まで人事関連業務を行う、採用やタレントマネジメント、リーダー育成、評価、給与計算、業務改善など幅広い領域に新しいテクノロジーを導入し、巨大ビジネスに成長する可能性も期待されています。

グローバルビジネスイノベーション

中国の先進技術、安心な品質とベトナムの低コストを組み合わせることでリスクをコントロールし、プロジェクトの利益を確保します。

✓安心な品質 中国のIT業界は25年の日本向けソフトウェア開発経験を積み、高品質の納品とサービスを提供することができます。

✓豊富な人材 先進技術人材について まだ10年以上 2%~5%のニーズが続いています。中国の大学にIT+日本語の専門(4年制)を設立しました。先進技術人材と日本語のIT人材需給(N2以上レベル合格)を確保できます。

✓低いコスト IT人材の平均年収について 日本人は600万円/年、中国人は400万円/年、ベトナム人は200万円/年、中国とベトナムの人材を組み合わせることで 開発コストを削減できます。

✓スピード対応 開発プロセスは、ウォーターフォール型ではなくて アジャイル型開発になりました。ビジネスニーズによって 機能を早速追加・修正することができます。

✓先進技術の活用 中国の先進技術人材、オフショア開発人材を活用し、課題を解決し、価値創造と事業共創のグローバルビジネスモデルになります。

生涯支援できるHRDプラットフォーム

サブシステム	個人	学校	企業
HRMS	自己評価	学力評価	人材管理／労務管理
HRBP	就職／転職	就職指導	リクルート／離職予防
LMS	オンライン自習	バーチャルスクール	社員教育
セキュリティ	安否確認	安否確認	安否確認
ヘルスケア	健康管理	健康管理	健康管理

多様な端末の貸出が可能

5G・6Gで、WIFIなしでも、どこでも、いつでも、自由な利用する、健康管理も可能

家庭、スクール、職場部署などグループ化のアカウント管理、コミュニケーションが便利

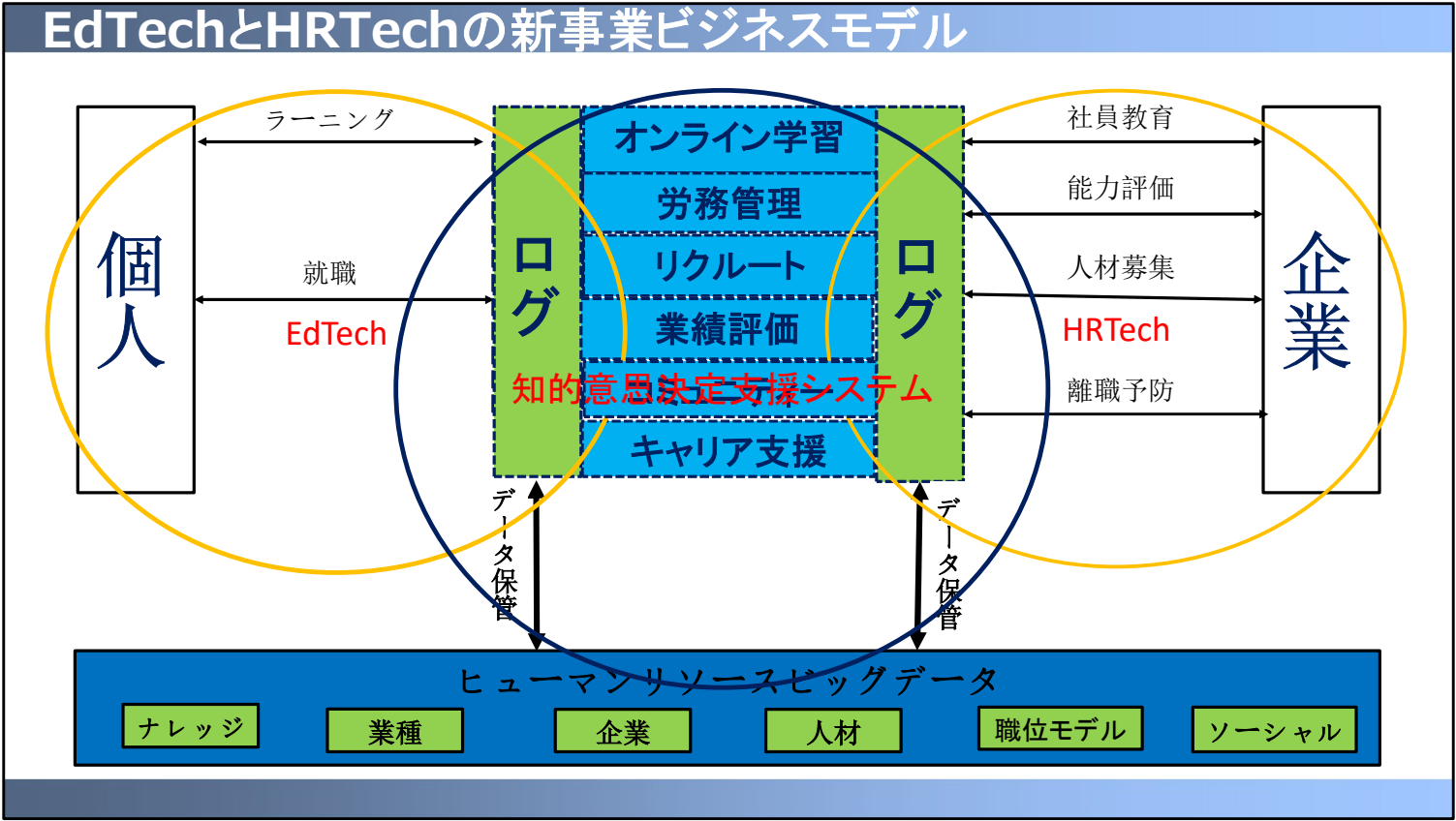
地域間格差がなし、学校間格差がなし、公平なオンライン教育を実現する

豊富な教学ツールが活用の可能、クラウドのバーチャルスクール

2022/1/29

- 11 -

GIGAスクール構想で進化する学校



- ✓学力診断テスト 学力を把握・分析し、指導上の課題を明らかにするとともに、個人に応じたきめ細かな学習プランの工夫や改善の充実に役立てます。
- ✓職業能力評価 仕事をこなすために必要な「知識」と「技術・技能」に加えて、「成果につながる職務行動例(職務遂行能力)」を評価したものです。
- ✓最適化の人材紹介 学力診断テストと職業能力評価のデータを基に 企業の職位の能力マップとマーチングして 結果は 80%以上ポイントが一致する人材を企業に紹介します。
- ✓人材管理分析と評価 組織の可視化により適材適所を実現、人が育つ組織になります。従業員満足度調査も簡単、基幹システムとの連携し、退職リスクも早期発見、人材情報の一元化になります。
- ✓学習の進捗と成果の可視化 マイページで 個人のレポートを確認できます。

EdTech

GIGAスクール構想の実現パッケージ ～令和の時代のスタンダードな学校へ～

1. 環境整備の標準仕様例示と調達改革

- 「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策」の考え方に基づく、**学習者用端末の標準仕様**を例示
- 「GIGAスクール構想」に基づく、高速回線に向けた**校内LAN整備の標準仕様**を例示
- 容易に大規模な調達が行えるよう、標準仕様書を基に**都道府県レベルでの共同調達**を推進
- **学校ICT環境の整備調達をより容易に**

2. クラウド活用前提のセキュリティガイドライン 公表

- 各教育委員会・学校が情報セキュリティポリシーの作成や見直しを行う際の参考とする、**「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」**（平成29年策定）を、**クラウド・バイ・デフォルト**の原則を踏まえて改訂
- 整備の硬直化を避けるための位置づけや構成の見直し
 - クラウド・バイ・デフォルトの原則追記
 - クラウドサービス事業者が留意すべき事項の追加
- **クラウド活用により使いやすい環境へ**

3. 学校ICT利活用ノウハウ集公表

- 教師や学校、教育委員会等が、情報教育やICTを活用した指導、ICT環境整備等を行う際に参考となる様々な情報をまとめた**「教育の情報化に関する手引」**を公表。特に「第4章 教科等の指導におけるICTの活用」においては、ICTを効果的に活用した学習場面の10の分類例を示すとともに、
- 小学校、中学校、高等学校については各学校段階における各教科等ごとに
 - 特別支援教育については学習上の困難・障害種別ごとに
- **ICTを活用した効果的な学習活動の例を提示。**
全ての教職員がすぐに使えるように

4. 関係省庁の施策との連携

- 総務省：教育現場の課題解決に向けた**ローカル5Gの活用モデル構築**
 - 経済産業省：**EdTech導入実証事業、学びと社会の連携促進事業**
- **ローカル5Gや教育コンテンツも活用して未来の学びを実現**

5. 民間企業等からの支援協力募集

- 将来のICT社会を創造し、生きていく子供達に向けた社会貢献として、**民間企業等から学校ICT導入・利活用に対するあらゆる協力を募る。**
- **民間等の外部支援により導入・利活用**

校内ICT環境整備に必要となる機器提供
新品・中古問わず十分なスペックの端末の学習者への提供
ICT支援員として学校の利活用の人的サ

令和元年12月19日

「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策」の考え方に基づき、学習者用端末の標準仕様を提示
本来、調達は学校の活用方法に応じて柔軟に行われるべきものの前提で、簡便な調達に向けたモデル例とする

- 3 OS ごとの標準仕様を提示
- 十分な通信ネットワークとクラウド活用の下でのブラウザベースでの活用が大前提
米国の300ドルパソコンを念頭に、大量調達実現を含めて、5万円程度の価格帯
- デジタル教科書・教材等の操作性向上に資するタッチパネル・ハードウェアキーボード、QRコード読み込みを想定したインカメラ/アウトカメラを共通仕様に
Wi-Fiを補完するLTEも選択肢の1つ

● Microsoft Windows OS:

- Microsoft Windows 10 Pro
- CPU: Intel Celeron 同等以上
2016年8月以降に製品化されたもの
- ストレージ: 64GB
- メモリ: 4GB
- 画面: 9～14インチ

● 3 OS 共通仕様

- 無線 IEEE 802.11a/b/g/n/ac以上
- LTE通信対応も可
- Bluetooth接続でないハードウェアキーボード
- 音声接続端子: マイク・ヘッドフォン端子

● Google Chrome OS OS:

- Google Chrome OS CPU:
- Intel Celeron 同等以上
2016年8月以降に製品化されたもの
- ストレージ: 32GB
- メモリ: 4GB
- 画面: 9～14インチ

- 外部接続端子: 1つ以上
- バッテリ: 8時間以上
- 重量: 1.5kg未満
- タッチパネル対応
- インカメラ/アウトカメラ

● iPadOS

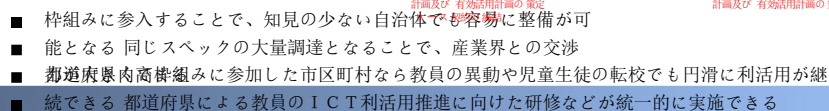
- OS: iPadOS
- ストレージ: 32GB
- 画面: 10.2～12.9インチ

● 保証

- 原則1年
- センドバック方式(2週間程度で返却) 端末不調時の予備を常備

ストレージ:
256GB

1. 環境整備の標準仕様書例示と調達改革



教育情報セキュリティポリシーガイドライン改訂の背景について

【平成29年10月】

- 各教育委員会・学校が情報セキュリティポリシーの作成や見直しを行うものとして、『教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン』を策定。

【令和元年12月 / 第1回改訂】

- その後、GIGAスクール構想における「1人1台端末」及び「高速大容量の通信環境」を一体とした学校のICT環境整備の推進を受けて、教育情報セキュリティポリシーガイドラインについて改訂（1回目）を実施。

【令和3年5月 / 第2回改訂】

- 更に、令和2年に入り、コロナ禍においても子供たちの学びを保障する観点から、当初4年間で整備する予定であった計画を1年間に前倒して、1人1台端末環境の整備を加速させてきたところ。
- これらの急速な学校ICT環境整備の推進を踏まえ、**1人1台端末を活用するために必要な新たなセキュリティ対策やクラウドサービス活用を前提としたネットワーク構成**等の課題に対応するため、**更なる改訂（2回目）を行う**

今回の改訂ポイント

① 端末整備推進に伴う新たなセキュリティ対策の充実



1人1台の学習者用端末における学校内外での日常的な端末の活用や、クラウドサービス活用に向けたID管理などのセキュリティ対策の記述を充実

② 教育情報ネットワークの在り方を明確化



クラウドサービス活用に伴うセキュリティ対策を実現するため、過渡期としてのローカルブレイクアウト構成や、今後目指すべき校務系/学習系のネットワーク分離を必要としない構成の在り方を明確化

日本学生人数:小・中学生

25-4 小・中学校の学年別児童数と生徒数（令和元年）

学年	総数	# 男	国立	# 男	公立	# 男	私立	# 男
小学校	6,368,550	3,258,343	37,347	18,572	6,253,022	3,205,654	78,181	34,117
1 学年	1,028,675	525,894	6,256	3,095	1,009,153	516,890	13,266	5,909
2	1,043,610	533,044	6,219	3,105	1,024,157	524,052	13,234	5,887
3	1,062,235	544,426	6,279	3,128	1,042,891	535,672	13,065	5,626
4	1,064,374	544,674	6,187	3,068	1,045,114	535,950	13,073	5,656
5	1,080,561	552,204	6,217	3,117	1,061,417	543,469	12,927	5,618
6	1,089,095	558,101	6,189	3,059	1,070,290	549,621	12,616	5,421
中学校	3,218,137	1,645,095	28,700	14,465	2,950,331	1,515,369	239,106	115,261
1 学年	1,078,713	551,413	9,412	4,736	987,301	507,062	82,000	39,615
2	1,052,191	538,256	9,451	4,752	963,669	495,327	79,071	38,177
3	1,087,233	555,426	9,837	4,977	999,361	512,980	78,035	37,469

「学校基本調査」（5月1日現在）による。
資料 文部科学省「学校基本調査（初等中等教育機関 専修学校・各種学校）」

日本学生人数:大学生

25-7 短期大学と大学の入学者数

区分	平成30年			令和元年		
	入学者数	男	女	入学者数	男	女
短期大学	53,858	5,758	48,100	51,306	5,930	45,376
公立	2,685	428	2,257	2,597	381	2,216
私立	51,173	5,330	45,843	48,709	5,549	43,160
大学	628,821	339,867	288,954	631,273	340,347	290,926
国立	99,371	61,940	37,431	99,136	61,783	37,353
公立	33,073	14,605	18,468	33,712	14,775	18,937
私立	496,377	263,322	233,055	498,425	263,789	234,636

「学校基本調査」（5月1日現在）による。
資料 文部科学省「学校基本調査（高等教育機関）」

GIGAスクールを基盤とした令和の日本型学校教育



「GIGAスクール構想」の実現のためのハード・ソフト・人材一体となった学びの環境整備

<ハード> ICT環境整備の抜本的充実

- 児童生徒1人1台コンピュータを実現
(1台当たり4.5万円を補助。小中全学年で達成。高校は低所得世帯等へ支援。)
- 高速大容量の通信ネットワーク(全ての小・中・高校・特別支援学校等で校内ネットワークを完備
- (1/2補助) 家庭学習のための通信機器(モバイルルータ)の整備支援(小・中・高校・特別支
- 援学校等(定額補助)) 通信費の支援(低所得世帯への支援施策において通信費相当額を支給)

- ✓ 児童生徒1人1台コンピュータと高速大容量の通信ネットワーク環境を実現することで、これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、**児童生徒・教師の力を最大限に引き出す**。
- ✓ 災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時における、**児童生徒の**
- ✓ **「学びの保障」の観点からも、ICTを効果的にフル活用することが重要。**
ハード面の整備だけでなく、**ソフト・人材を一体とした改革**を強力に推進。

<ソフト> デジタルならではの学びの充実

- 新学習指導要領の実施(小: R2年度～全面実施、中: R3年度～全面実施、高: R4年度～年次進行で実施)
- デジタル教科書・教材などのデジタルコンテンツの導入促進 各教科等ごとのICTを効果的に活用した学習活動や先端
- 技術の利活用方法を提示(R元年度「教育の情報化に関する手引」を公表・周知。R2年度中に「先端技術利活用ガイドブック」を公表)
- データ標準化やCBTの活用等により、教育データ利活用を

<人材> 日常的にICTを活用できる体制

- 「GIGA StuDx推進チーム」による情報発信・共有(独)教職員支援機構による、各地域の
- 指導者養成 研修の実施、研修動画の配信
- ICT活用教育アドバイザーによる、相談体制の充実 GIGAスクールサポーターによる、学校
- における導入支援(自治体に対して、国が1/2補助)
- ICT支援員による、日常的な教員のICT活用支援
(R4年度までに、4校に1人程度配置)

G I G Aスクール構想の実現

4,819億円(文部科学省所管)

令和元年度補正予算額 2,318億円
令和2年度1次補正予算額 2,292億円
令和2年度3次補正予算額 209億円

※「通信環境の円滑化」は学校施設環境改善交付金の

Society5.0時代を生きる子供たちに相応しい、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、「1人1台端末」と学校における高速通信ネットワークを整備する。

目指すべき
次世代の
学校・
教育現場

- ✓ 学びにおける時間・距離などの制約を取り払う ～遠隔・オンライン教育の実施～
- ✓ 個別に最適で効果的な学びや支援 ～個々の子供の状況を客観的・継続的に把握・共有～
- ✓ プロジェクト型学習を通じて創造性を育む ～文理分断の脱却とPBLによるSTEAM教育の実現～
- ✓ 校務の効率化 ～学校における事務を迅速かつ便利、効率的に～
- ✓ 学びの知見の共有や生成 ～教師の経験知と科学的視点のベストミックス(EBPMの促進)～



児童生徒の端末整備支援 3,149億円

○「1人1台端末」の実現

- ◆ 国公立の小・中・高・特支等義務教育段階の児童生徒が使用するPC端末整備を支援

対象：国・公・私立の小・中・高・特支等
1,022億円 令和元年度
国立、公立：定額(上限4.5万円) 令和2年度1次 1,951億円
私立：1/2(上限4.5万円)

- ◆ 国公立の高等学校段階の低所得世帯等の生徒が使用するPC端末整備を支援

対象：国・公・私立の高・特支等 令和2年度3次
161億円 国立、公立：定額(上限4.5万円)
私立：原則1/2(上限4.5万円)

○ 障害のある児童生徒のための入出力支援装置整備

視覚や聴覚、身体等に障害のある児童生徒が、端末の使用にあたって必要となる障害に対応した入出力支援装置の整備を支援 令和2年度1次
11億円 対象：国・公・私立の小・中・高・特支等 令和2年度3次
4億円 国立、公立：定額 私立：1/2

学校ネットワーク環境の全校整備 1,367億円

- 小・中・特別支援・高等学校における校内LAN環境の整備を支援
加えて電源キャビネット整備の支援

対象：国・公・私立の小・中・高・特支等 令和元年度
71億円 令和2年度1次 1,296億円
国立：定額



G I G Aスクールサポーターの配置促進 105億円

- 急速な学校ICT化を進める自治体等のICT環境整備等の知見を有する者の配置経費を支援

対象：国・公・私立の小・中・高・特支等 令和2年度1次
公立、私立：1/2 国立：定額 105億円

緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備 197億円

- 家庭学習のための通信機器整備支援

Wi-Fi環境が整っていない家庭に対する貸与等を目的として自治体が行う、LTE通信環境(モバイルルータ)の整備を支援 令和2年度1次
147億円 対象：国・公・私立の小・中・高・特支等 令和2年度3次
21億円 国立、公立：定額(上限1万円) 私立：1/2(上限1万円)

- 学校からの遠隔学習機能の強化

臨時休業等の緊急時に学校と児童生徒がやりとりを円滑に行うため、学校側が使用するカメラやマイクなどの通信装置等の整備を支援 令和2年度1次 6億円
対象：国・公・私立の小・中・高・特支等
公立、私立：1/2(上限3.5万円) 国立：定額(上限3.5万円)

- オンライン学習システム(CBTシステム)の導入

学校や家庭において端末を用いて学習、アセスメントが可能なオンライン学習システム

事業の内容

事業目的・概要

世界中で「AIの世紀」の人材像を意識しつつ、ICT技術を活用改革教進行しており、整備の遅れた我が国でも小・中・高での1人1台（導入サービス事例の）

- 端末での学習環境が急速に整備されています。コロナ禍での臨時休校・分散登校時にも学びを継続できる環境整備も、急ぐ必要があります。本事業では、政府全体で進める「GIGAスクール構想」の一環として、「1人1台端末」環境での学び方改革を2つの方法で支援します。
- まず、市販のEdTechを用いて学習スタイルの転換を進めたい学校等（学校および一定基準を満たすオルタナティブスクール）への試験導入を、学校等による費用負担が生じない形で進めるべく、事業を行うEdTechサービス事業者に補助をします。

併せて、高校での総合探究・理数探究・公共などの新教科や中学以下の総合学習を中心にしてSTEAM学習（学際研究型・プロジェクト型学習）を進めるためのオンライン教材の開発を進めます。

※1 EdTech: Education(教育)×Technology(科学技術)を掛け合わせた造語。AI、IoT、VR等のテクノロジーを活用した革新的な能力開発技法。

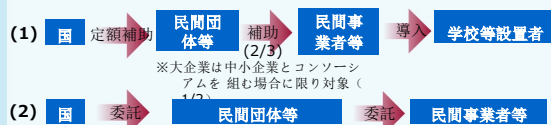
※2 STEAM: 科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、リベラルアーツ・教養(Arts)、数学(Mathematics)を活用した文理融合の課題解決型教育。

成果目標

学校等におけるEdTechの試験導入・サポートに必要な経費等について、企業向け補助を行い、次年度以降の継続活用や普及を図ります。

また、課題解決力・創造性を育むオンライン学習教材の開発を促進し、全国展開を加速します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

(1) EdTech導入補助金（EdTechの学校等への試験導入支援）

1人1台（導入サービス事例の）

- 「自学自習」用デジタルドリル・動画教材
1人1台端末環境で、生徒の学習履歴に基づき、アルゴリズムにより個々の生徒の理解度に合わせた問題を提示。
- 「協働学習・反転授業」支援ツール
生徒がお互いの回答を一覧で閲覧できたり、教員が生徒の学習状況をリアルタイムに把握しながら、協働学習、反転授業を実現。
- 「プログラミング学習」ツール
Webデザインやプログラミング等を、ガイダンスに従いながら学び、1人の教員が複数の生徒を同時に指導することが可能。



デジタルとアナログの組み合わせをしながら授業を進めることが可能



生徒がお互いの回答を一覧で閲覧・コメントし、協働学習等が可能



キャラクターの指示に従うことで個別に学習を進める事が可能

(2) STEAM教育実現に向けた環境整備（STEAMライブラリーの構築）

- 小・中・高を通じた教科横断のカリキュラム・マネジメント、高校での総合探究・理数探究・公共の開始、高大接続改革に合わせ、教育産業・大学・研究機関・産業界の連携で、社会課題・生活課題の解決を考えるオンラインSTEAM教材のライブラリーを構築する。無料開放し、生徒・教師・研究者・企業人が改良を重ねるコミュニティを育てる。STEAM Library 2021 spring OPEN!

<令和2年度に開発中のテーマの例：全63テーマ>

- ・AIって何だろう？ 機械学習とは？ 画像認識とは？
- ・カーボンフットプリントとは何？ どうマーケティングする？
- ・あなたの人生にはお金がいくら必要？ 「働いて稼げばいい」と言われるが、どうやって稼げる？
- ・衣類の生産と消費の環境負荷を減らすには？
- ・カンボジアの貧困層の悪循環を好循環に変えるには？
- ・航空産業は地球温暖化をどう乗り越える？
- ・新型コロナウイルス対策を科学しよう



人材育成ソリューション

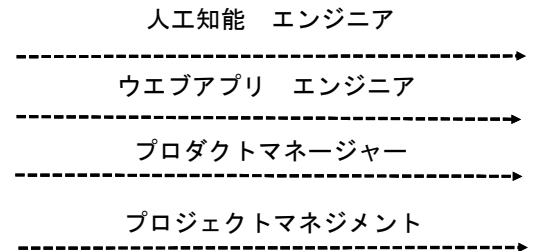
2017年から 中国有名の北京師範大学のイベントに参加して 教育学と教育技術など知識を勉強しています。さらに 中国の大学、中学の教育現場の現状と将来のニーズを調査しました。

2030年まで IT人材不足は続いています。IBMの成功ケースとマーケティングニーズによって新しいIT企業と大学の協力の人材育成モデルをデザインしました。

人材育成ソリューション



		NOSQL	IDSS		MOT 上流工程 下流工程 品質保証 面接指導 就職支援
プログラミング		WEB開発	データ分析		
Linux	IaaS	機械学習	PaaS構築	SaaS設計	
WEB基礎	RDB	CRM開発	モバイルアプリサービス		
心理学	SNS	行動経済学	PdM		
会計学	統計学	RPA開発	ソフトエンジニアリング		
法律	経済学	経営学	ITIL	PjM (PMP)	
数学		文書		マナー	
一般日本語：300時間		IT日本語：300時間			
英語					



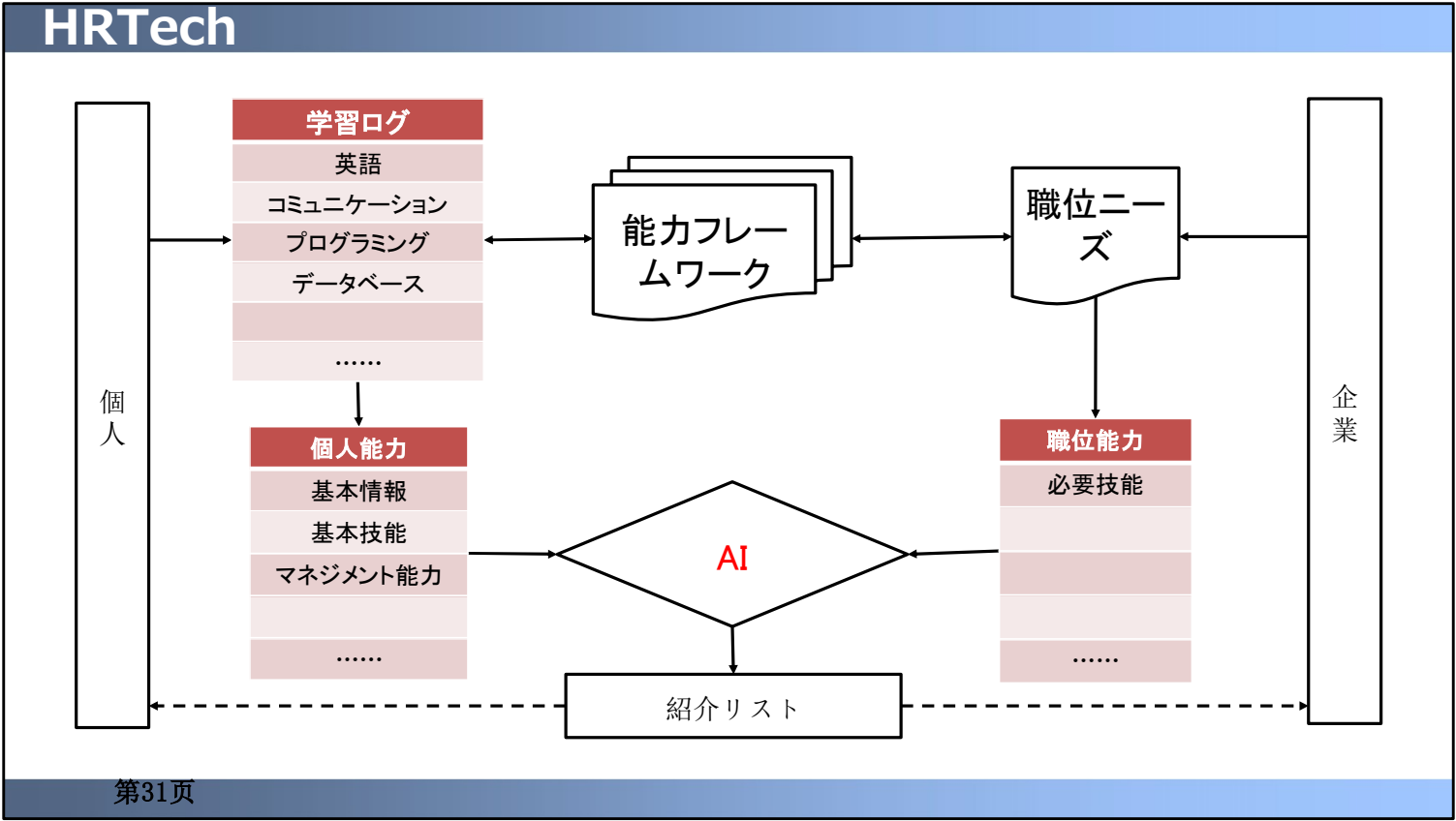
共通ビジネス学科	IT専門学科
共通基礎学科	共通IT基礎学科

	授業内容	担当先生
第一学年	大学共通学科	大学先生
第二学年	大学専門基礎学科	大学先生
第三学年前半	ビジネス学科	大学先生
第三学年後半	専門学科(ケーススタディを含め)	企業先生
第四学年前半	ETPケーススタディのチーム管理	大学先生
	ETPケーススタディ(総合)	企業先生
第四学年後半	論文/設計	大学先生
	企業OJT	企業先生

評価ポイント	評価方法	満点	メモ
出欠勤	出欠勤の回数	10	
宿題・練習	評点	10	
テスト	中途テスト、終了テスト	60	基本:中:高=40:40:20
ケーススタディ	プレゼン	20	チームワーク
合格基準	総合得点60以上	100	

2022/1/16add

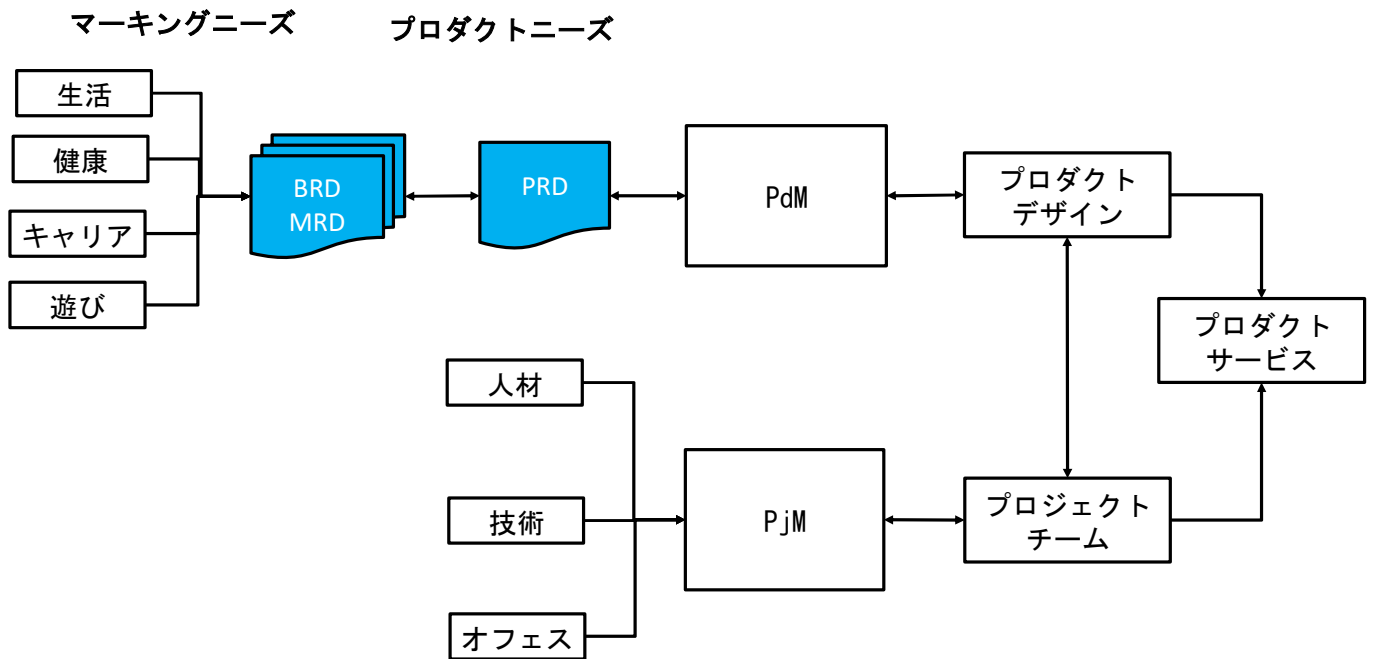
HRTech



知识图谱

プロダクトマネジメントとプロジェクトマネジメントの経験を基に 大学授業用のテキストブック《プロダクトマネージャ》(前版2015年)を編集・更新しています。今回 近年のIT業界の進化、業界ビジネスイノベーションによって 内容を添削して 最新のバージョンを作成します。

プロダクトマネジメント・プロジェクトマネジメント



	プロダクトマネージャー (PdM)	プロジェクトマネージャー (PjM)
客先	エンドユーザー	プロダクトオーナー
インプット情報	業界の情報	プロダクトデザイン
成果物	BRD	設計書
	MRD	ソース
	PRD	テストケースとデータ
		プロジェクトマネジメントレポート
	プロダクトのデモ	システムガイド
アウトプット情報	プロダクトデザイン	プロダクト

	プロダクトマネージャー (PdM)	プロジェクトマネージャー (PjM)
必要な知識	ソーシャルネットワーク	ITIL
	一般心理学・行動経済学	PMP
	ビジネスマネージメント	経理
	ユーザーエクスペリエンス	IT関連知識
主な作業内容	マーケティング調査	スコープ管理
	ユーザーエクスペリエンスデザイン	スケジュール計画と管理
		チーム体制、要員計画と管理
		見積、コスト管理
		品質管理
		リスク管理

Step by Stepのケーススタディテキストブックと人材育成ワークショップ

テキストブック資料は私の自習ノートです。一部資料は大学講習と新入社員研修資料として活用しました。2020年9月から整理してウェブサイト「<https://Experience-Training.github.io/>」に公開しています。

(英):英語 (中):中国語 (日):日本語 (中日):中国語と日本語

✓外国語シリーズ

一般英語

IT英語

一般日本語

JLPT N1

JLPT N2

IT日本語基礎

日本企業の文化とビジネスマナー(敬語を含め)

✓新入社員教育シリーズ

Moment of Truth(中)

PythonとDjangoの入門(中)

業務プロセス自動化(中)

Vue.js(中)

Step by Stepのケーススタディテキストブックと人材育成ワークショップ

✓メインフレーム開発シリーズ

COBOL(中日)
PL/1(中日)
TSO(中日)
JCL(中日)

✓先進技術シリーズ

仮想マシン
Hadoopプラットフォーム
グラフデータベース
データ可視化
機械学習
知的意思決定支援(IDSS)

✓プロダクトマネジメントシ・プロジェクトマネジメントシリーズ

プロダクトマネジャー(PdM、中)
プロジェクトマネジメント(PjM、中日)
ソーシャルネットワーク(中)
ソフトウェア工学(Software Engineering、中日)
モバイルアプリデザイン
行動心理学
行動経済学

✓コンサルティングシリーズ

中小企業ビジネスイノベーション
キャリアデザイン
コンサルのビジネス文書
CRM

ケーススタディ	習得知識・能力
銀行預金システムの入出金と帳票	メインフレーム (IBM z/OS)
企業の物流システム	WEB
JLPTオンラインライニングアプリ(端末版・WEB版)	WEB、IOS、Android
プロダクトマネージャー	プロダクトデザイン、PMP、プレゼン、講演
ECサイトデザイン	EC、物流、経理（準備中 2020/11/1）

SWOT

SWOT

このページ以降のビジネス運営など内容は略です。

投資と利益

社内総合管理サービス料金プラン

会社規模	有料プラン(万円/年)	無料プラン
<50	18	人材紹介成約:1名
50~100	36	人材採用成約:2名
100~200	60	人材採用成約:4名
200~300	120	人材採用成約:6名
300~500	180	人材採用成約:12名
500~1000	240	人材採用成約:18名
1000~2000		人材採用成約:36名
2000~3000		人材採用成約:60名
3000~5000		人材採用成約:90名
5000~		
人材サービス料金は職位によって 精算します。		

投資と利益の予想

	小学	中学	大学	合計
学生人数	6,368,550	3,218,137	682,679	10,269,366
利用率10%、費用1万円／年	636,855	321,814	68,268	1,026,937
利用率20%、費用1万円／年	1,273,710	643,627	136,536	2,053,873

投資について

- 初期投資総額約1億円～3億円（機能・規模によって）
- 初版開発期間3年（デモ版は1年以後、一部機能は利用可能）
- スクラム開発、OKR目標管理



参考資料

- 文部科学省
 - GIGAスクール構想の実現パッケージ
 - 教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン
- 経済産業省
 - 「未来の教室」ポータル<https://www.learning-innovation.go.jp/>
 - 企業の戦略的人事機能の強化に関する調査
- 政府CIOポータル
 - GIGAスクール構想など教育のデジタル化の推進に向けた政府全体の取組について
- 首相官邸
 - デジタル・ガバメント閣僚会議 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/egov/>

Thank you!